



させぼ夢大学

発行 ● させぼ夢大学広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.178 <2009・11>

平成21年度
第7回

2009年 **11月13日(金)**

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

今回は俳優としての活躍もさることながら、演出家、翻訳家、ドキュメンタリー・ドラマ・映画・CMなどのナレーションや朗読劇等の声優としても広く知られている名優中の名優、江守徹さんです。

江守さんは、早くから俳優志望であったのですが、当時の映画会社の「ニューフェイス」という言葉が嫌で、それらと違う新劇俳優の「文学座」に高等学校卒業後、19歳で入られました。

持ち前の卓越した演技力が買われ、次第に頭角をあらわし、テレビや舞台において俳優・演出・台本などをこなす、押しも押されも



しない実力派俳優となられました。特に実践から培われたシェイクスピアの演劇論はかなり専門的との評判。また、海外戯曲「アマデウス」などを翻訳され、「魔笛」では初のオペラ演出も手がけられています。さらに、平成7年のNHK大河ドラマ「八代将軍 吉宗」の近松門左衛門役では、その語りの腕をたっぷりと披露されました。

今回は、独特の笑顔とあの素晴らしい声と共に、これまでの多彩な活躍を通して得られた深い人生観を聴くことができそうです。ご期待ください。

講 師 ● 俳優 ^{え もり} 江 守 ^{と お る} 徹 氏

テーマ ● 芝居と人生



次回のご案内

- と き / 12月17日(木)
- 講 師 / エッセイスト ^{えびのなかよこ} 海老名香葉子氏
- テーマ / 泣いて笑ってがんばって

●東京都本所生まれ。昭和27年、昭和の「爆笑王」落語家林家三平と結婚。無名時代の苦勞を共にしながら、林家こん平ら30人余の弟子の面倒をみる。55年、夫・三平の死後はテレビ、雑誌などでコメンテーター、エッセイストとして活躍中。二男二女の母でもあり、長男は九代 林家正蔵(落語家)、次男は二代 林家三平(落語家)。著書に生い立ちを綴った「ことしの牡丹はよい牡丹」、高等学校の教科書に採用された「あした天気になあれ」など多数。

今月の講演は「第2金曜日」です。

江守 徹氏のプロフィール

●昭和19年東京都生まれ。37年文学座研究所入所。41年座員となり、現在に至る。卓越した演技力と豊かな感性、よく響く柔らかい声、総合的な安定感で演劇界屈指の存在として、数々の舞台・映画・テレビドラマへの出演の他、多くの作・演出・翻訳・ナレーションまでこなす。第8回紀伊國屋演劇賞個人賞(「オセロー」)、平成元年度日本アカデミー賞優秀助演男優賞(映画「社葬」)、第2回読売演劇大賞・優秀演出家賞(「ウェストサイドワルツ」)『恋ぶみ屋一葉』などを受賞。





等、人の健康に一役買っている
寄生虫がアレルギー性疾患
な物か分かりませんが。
が、まさに超清潔志向の世の
中の産物でしょうか。実際はど
んな物か分かりませんが。
講演直前に、最近インフルエ
ンザを寄せ付けないスーツが出
たとか、と話をしたばかりでし
たが、まさに超清潔志向の世の
中の産物でしょうか。実際はど
んな物か分かりませんが。
寄生虫がアレルギー性疾患
等、人の健康に一役買っている

な！ キヨミちゃん？ ほんまかい
鹿子前町 宮原 恵子

又、昔から「笑う門には福来
たる」ということわざがありま
は否めませんが。
恩も計り知れないものがあるの
学の進歩も必要な事で、その恩
はないでしょうか。ただし、医
そのおかげで菌に抗体ができ、
最近はずく抗生剤に頼ったり、
しい力があるにもかかわらず、
人の体は後退してしまっただの
もありません。
人は自然治癒力というすばら
しい力があるにもかかわらず、
最近はずく抗生剤に頼ったり、
そのおかげで菌に抗体ができ、
いたちごっこになっているので
はないでしょうか。ただし、医
恩も計り知れないものがあるの
は否めませんが。

との事。「目からウロコ」の話
です。
人の生活は進歩してきたが、
人の体は後退してしまっただの
もありません。
人は自然治癒力というすばら
しい力があるにもかかわらず、
最近はずく抗生剤に頼ったり、
そのおかげで菌に抗体ができ、
いたちごっこになっているので
はないでしょうか。ただし、医
恩も計り知れないものがあるの
は否めませんが。

三行感想文
夢のとびら

■藤田先生は、閉鎖的な「象牙の塔」から「免疫」という切り札を引っさげて、21世紀の健康ランドに華々しく舞い降りた怪人といった風情と口調で、「笑いが一番」の体験学習をさせてくれた。
光月町●国松 仁志

■終始ダジャレで笑わせながら、免疫力を高める為には、我々の体内細菌は1万年前と同じだからあまりにも清潔を気にして生活しないこと。洗ひすぎが髪をだめにする。子供も第1子がアレルギー、O157等に弱いのはあまりにも「キレイ」を意識したことが関係している。私たちは緑黄色野菜を摂り、原始的生活も必要だと感じました。
桜木町●原 敏朗

■会場は終始笑いの渦。難しそうな医学の話だが、駄洒落やユーモアをふんだんに盛り込み、分かりやすく解説し、聴衆を引き付ける。「免疫力」に対する考えを一変させられた。なんとも愉快的健康講座でした。
南風崎町●横山 春美

■洗剤メーカーのCM「清潔な国民は栄える」に踊らされて？過度な清潔志向に走っていた小生に、免疫パワーアップの貴重な話で、プレーキをかけていただいた藤田先生に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。
大和町●宅島 富士彌

■同年代の藤田先生の興味津津のお話を聞き、私も回虫様のことは鮮明に覚えていますし、食事でも畑で作ったものばかり食べていましたので、「苦い薬」を飲んだら沢山出て来て、今頃のように病院へ行くこともなかったですね。今思えば病気したこともなかったのは回虫様キヨミちゃんのお話に納得しました。大いに笑って免疫力を高めます。
上町●松尾 雅子

■夢大学に入って4年。今までで一番笑いました。平戸から往復3時間かかるけど、夢大学聴講の後にはいつも次回が待ち遠しいです。「人生に多少の困難はつきもの」「一日に一度は大声で笑う」今後の生きる力となったことばです。藤田先生の執筆された本、全部読んでみます！勿論、文庫本を！
平戸市●宮崎 トシ子

■藤田先生のお話をまだまだ聞きたい気持ちでした。私も海人草を飲んだ一人です。トイレに行けば白い虫が出てきていました。しばらくは、うどんを食べることが出来ませんでした。でも本当に72歳になりますが、病気もしないで毎日過ごしております。微生物のおかげですね。
長坂町●松山 淳子

■難しいお話ではないかと思っていましたら、意外や意外、オヤジギャグ連発で回虫の話が楽しく、笑いの中で消化する事ができました。お陰様で今日は良い細菌培養が出来たようです。
折橋町●田口 清紀

■何やら身体が痒くなりそうな、サナダ虫キヨミちゃんのお話。人は人間だけでは生きていけない・・・とか。ダジャレは自己免疫力。今月も又NK活性！楽しい気分です。
江迎町●山口 美津枝

■雨水のはねかえらなく歩ける女性がどれほどいるでしょう。「雨(水)もしたたるイオンナ・・・」ひろばの日本の伝統芸能の美しいお姿。そして忘れかけた日本人の自然治癒力を取り戻すお話。でもやっぱりオナカにキヨシ君(きよみちゃん)を飼える勇気はありません…。イキイキ生きましょう。
比良町●岡井 眞紀

夢のひろば

- ◆ 日時 / 11月13日(金) 午後6時00分～20分
- ◆ 演目 / 金管バンド
- ◆ 出演 / 相浦西小学校金管バンド
- ◆ 出演者(団体)紹介

昨年、創立25周年を迎えた相浦西小学校は県北部に位置し、豊かな自然に恵まれた学校です。校舎の背後に見える「愛宕山」はその象徴とも言えます。

私たち「金管バンドクラブ」も学校と共に歩み続け、多くの部員に受け継がれ今に至っております。現在26名の子どもたちが、永田洋二先生ご指導のもと、平日、土曜日合わせて週4日の練習をしています。近年はジャズの曲目にも挑戦し、みんなで演奏できた時の喜びを感じております。

主な活動としては、運動会や入学及び卒業式での演奏、地域イベントやお祭りでの演奏があげられます。

また、毎年1月に行われる諫早での発表会に出場するため、これからも練習に励みます。

今回「夢のひろば」に出演する機会をいただきありがとうございました。

◆ 曲目

- 栄光の架け橋 作曲/北川 悠仁・編曲/山下 国俊
- 負けないで インザムード 作曲/織田 哲郎・編曲/小島 里美
- In the Mood Music by Joe Garland・編曲/山下 国俊
- Sing Sing Sing 作曲/Louis Prima・編曲/山下 国俊

「超清潔志向」の落とし穴？ アトピーから癌まで…

す。昔の人は分かっていたのでしょうか。

私は、キヨミちゃんを育てていく勇気はないが、NK細胞を活性化させ、健康でポジティブな生き方をできたらと思いつつ、藤田先生の更なる研究を希望しています。

「きれい社会」もほどほどに

京坪町 太郎浦 幸子

レジュメを準備して頂きスライドを活用してお話は、解り易く楽しい時間を堪能できた。かつて柔道部の部長をなさったとか、堂々とした体格で笑顔振りまきながら話され、時には駄洒落で笑いを誘い、NK細胞もかなりアップしたのではと

思った。

アレルギー病は35年前には無かったのに、最近はかなり確率で罹患している。これは回虫や細菌、微生物を排除したためだとか。「きれい社会」もほどほどにして、これら微生物との共生も大事と力説されたのには頷けた。

免疫力は70%を体で作り、残りの30%は「こころ」が作り出すとか。免疫機構のうちTh2がアレルギー反応に関与し、癌はTh1が関与する。Th1が弱まると癌になり易くなる。腸内細菌叢のバランスの良い環境を保つ為に、食事は植物性のしかも手作りを大事にすることを指南された。ストレスを貯めずよく笑い、自然に触れて和やかに過ごし、長寿社会に挑みたい。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！ ※締め切りは講演日の1週間後(必着)

「山川草木国土悉皆成仏」との先生の自然観に共鳴した。

人類と共に生きる

田原町 藤井 文夫

回虫とかギョウ虫、サナダ虫と聞くと、小学生の頃、虫下しと称して海人草を煮詰めた透明で黄土色をした液体を、当時の学校給食用アルミカップ一杯飲まされた記憶がある。他の人達は皆嫌がっていたが、私は割と平然と飲み始め、飲み終えた途端にウエツと戻した様な憶えがある。それは何より保健ニュース版にお腹が大きく膨らんだ少年の写真と、お腹の中にいたという大量の回虫の写真が載っていたからだ。そうやってはなら

ないと必死で飲んだのかも知れない。ところが、翌年から虫下しはチョコレートになって登場した時、私は検査の結果飲む必要は無くなった。少し残念の思いがあった。時には回虫は脳に移動し、チーズに穴が空いている様な状況になるとか。すると人間はバカになると信じていた。そして考えた。お腹の回虫は必ずノドを通り鼻孔を抜け、目の裏、耳の穴の奥の方から頭ガイコツの中の脳味噌に達し、喰い荒らすのだと思っていた。ある夜半にフツと目を覚ましノドの奥に手を突っ込み、6センチ程の白い回虫を掴み出した記憶がある。何だか全てが遠い昔の化石の様な思い出である。

ず、元気に90分立ちっぱなし講演された。

回虫などの寄生虫の糞によるアレルギー改善、反動としての癌抑制力減少には笑いが良いとへたな駄洒落を飛ばしながら興味深く面白い講演であった。自然界の巧みさと片利共生と教わって来た回虫やサナダ虫に、実は人類と共利共生の形態があり、その歴史は何百年前、いや生物が地球上に発生した三十六億五千万年前に遡る深い話を伺った。実に愉快だった。

カイキウモ

藤田 純郎 氏



可愛かもんですバイ



「藤豊会」藤間裕祥さんの踊り

講演を聴かれた感想をお待ちしています!!

●400字詰原稿用紙1～2枚程度にまとめてお書き下さい。短文でも結構です。掲載分にはささやかですが記念品をお送りします。締め切りは講演日の1週間後(必着)といたします。感動がさめないうちになるべく早く書いてお出し下さい。

あて先は、☎857-0863

佐世保市三浦町4-30 松蔵ビル3F
させば夢大学 事務局

●講演直後、三行感想文(60字程度)を書いて、出口の「夢のとびら投稿箱」にお入れ下さい。尚、1週間以内にはがき、またはファックス等で投稿していただいても結構です。年間に2回以上掲載の方には記念品をお送りします。

●せっかく頂いた原稿でも、紙面の都合上掲載されない場合があります。また一部省略させていただきますことでもありますので、ご了承下さい。

E-mailでも受け付けます!

sasebo_yumedai@yahoo.co.jp



ふるとと 北松紀行

7

松浦党の隠し砦・直谷城

佐世保市文化財審査委員
吉福 清和

この城は、県の北部や壱岐を広く支配した志佐氏の居城であった。

平成初年の四次にわたる城跡総合調査の結果、応仁の乱（一四六七）後の領主志佐純勝や純本の頃、本格的な根本城として拡充され、その後、江戸時代初頭まで約百年間の志佐氏の居城であったことが確認された。

では、その以前の志佐氏の居城はどこだったのだろうか。福井集落から子産坂峠を越えてさらに県道を北に進むと、車約二十分で松浦市志佐町里にある寿昌寺に着く。

この寺は、初期志佐氏の居城陣内城（志佐城跡）と伝えられ志佐氏の菩提寺でもある。鎌倉時代、壱岐を支配し朝鮮との貿易で栄えた志佐氏の在り方を考えれば、領地の支配や貿易のためには船と港が不可欠であり、玄海灘の要衝であったこの地に居城を求めたことは当然のことであろう。

ところが、松浦党の中でも最も交易で栄えた志佐氏も、戦国時代の到来という歴史の変化に抗しきれず、戦乱の世に身を投ずることとなるのである。

この頃の周辺の状況をみれば、西に平戸松浦氏、東に龍造寺氏、南に有馬氏などの戦

国大名が割拠して互いに覇権を競いあい、志佐氏も戦いのための山城が必要となった。

こうして志佐氏は領主純本の頃、陣内城から山地に抱かれ天然の要害である直谷に居城を移したのである。しかし、この城も先の龍造寺、大村、松浦の諸氏に攻められ幾度か落城の憂き目にあったが、幕府開幕の頃までの百年間、居城として志佐一族の結束を保ったのである。

高さ二十メートルの崖上天守台、本丸、出郭、木戸、土塁、空堀などの遺構を残しながら今も静かに中世山城の姿を伝えている。

秋から初冬にかけてが山城を歩くのに最もふさわしい。仲間をつたって、一度訪ねてみてはどうだろうか。



直谷城と福井集落

事務局のたより

●これからはバッチーノ大好きに！

バッチーノとはスパゲティの名前でもオペラ歌手の名前でもありません。藤田さんの講演を受講なさった方はバッチーノを瞬時にご理解いただけると思います。

郵便をマツチ箱に入れて紐でぶら下げて、学校に行っていた小学生の頃が懐かしく思い出されます。ご自身のお腹に育てておられたサナダ虫の「キヨミちゃん」と格闘されたコンビニのトイレでの話に、ただただ驚くほかありませんでした。身をもって証明なさった藤田さんはただ者ではないと思います。

肥後守の小刀をポケットに忍ばせ、野山を駆け回った腕白だったのはな垂れ時代には戻れなくても、免疫力を高めるために少々のご飯が必要なことだと考え、これからはバスの吊り手もエスカレーターベルトも気にしません。バッチーノも悪くはないと考え生活したいと思います。

お出かけください

させば夢大学では、今年もアルカスSASEBOの共催を得て、「バラの折紙ツリー」を12月2日から25日までアルカス2階ロビーに展示します。「ツリー点灯式」と「ロビーコンサート」を行います。どうぞお誘い合ってお出かけください。

■日時 12月2日(水) 午後5時～6時
■場所 アルカス1階ロビー

ち夢大学のスタッフに対して、こちらが恐縮するぐらいの対応が優しくソフトでした。優しさや笑顔がガン細胞だって駆除をする話されていきましたから、これも普段に実践なさっておられるのでしよう。

事務局はどんなことがあっても、目をつり上げ、しかめつ面で仕事をしないようにして、脳みそを騙し騙ししながらがんばります。それにしても素晴らしい健康法を教わったものですよ。実践できればよいのです。が・・・！

